

2. 学校位置を考えるⅢ

総合的な検討について

これまでの会議で、東西2つの校区を仮定し、学校位置を4校に絞ってきました。東西の両中学校の組み合わせにより生じる課題等も含めて、総合的に学校位置を検討していきます。



《中学校ごとの個別要件と課題》

※ 校区名は仮称

校区	学校名	有効面積	通学距離 (直線4km超)	面積、距離等の個別要件と課題
西中学校	田川中	24,528㎡ (隣) 7,300㎡ 計 31,828㎡	0人	<ul style="list-style-type: none"> ・ 下水道の計画面積縮小に伴い、隣接する旧日通工跡地で残地が出る見込み(7,300㎡程度) ・ 残地を活用すれば十分な敷地が確保できるが、道路を挟んでいるため安全対策が必要
	後藤寺中	26,745㎡	0人	<ul style="list-style-type: none"> ・ 給食の実施方式によっては、敷地に余剰面積がなくなる。(自校方式なら700㎡程度は必要) ・ 周辺が宅地、河川のため、学校敷きの新たな需要に対応できない(敷地を広げられない)
東中学校	中央中	22,633㎡	24人	<ul style="list-style-type: none"> ・ 隣接する市役所駐車場(4,200㎡)は、将来の庁舎建替え用地として確保しておく必要がある。
	鎮西中	35,399㎡	112人	<ul style="list-style-type: none"> ・ 仮定している校区割では、金川校区に4km超の通学者が著しく多くなる。

《中学校の組み合わせで生じる課題》

パターン①	西中学校	東中学校	課題
	田川中	中央中	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校間の距離が近く、通学距離の矛盾が大きい(後藤寺小校区・大浦小校区は中央中に近い)

パターン②	西中学校	東中学校	課題
	田川中	鎮西中	<ul style="list-style-type: none"> ・ 金川校区の遠距離通学の問題が残る(校区割の見直しによる解消は可能) ・ 学校間の距離はあるが、大浦小校区・後藤寺小校区の一部で通学距離の矛盾がある(鎮西中に近い)

パターン③	西中学校	東中学校	課題
	後藤寺中	中央中	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校間の距離が近く、通学距離の矛盾が大きい(大藪小校区が中央中に近い)

パターン④	西中学校	東中学校	課題
	後藤寺中	鎮西中	<ul style="list-style-type: none"> ・ 金川校区の遠距離通学の問題が残る(校区割の見直しによる解消が不可能なため、通学手段による解消が必要) ・ 学校間の距離はあるが、田川小校区の一部で通学距離の矛盾がある(後藤寺中に近い)